

# 第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 江渕 良子

**1 単元名** のりものることをしらべよう  
教材名「いろいろなふね」(東京書籍1年下)

## 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「乗り物図鑑作り」を位置づけた。乗り物図鑑にはそれぞれの乗り物の役目とその工夫を記入する。役目と工夫を文章から読み取るためには、教材文や自分の選んだ本の内容を繰り返し読むことが必要になり、本単元でねらう「文章を、事柄の順序を考えながら文章の大体を読むこと。」(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

## 3 単元について

本学級の児童たちは、説明的文章の前単元「どうやってみをまもるのかな」では、読み取った内容を印象つけるために、動作化により自分の理解を深める手立てとした。動作化によって、それぞれの動物の名前と体の特徴を挿絵と照らし合わせて覚えるきっかけとはなったが、文章の内容を事柄の順序を考えながら文章の大体を読み取る力の育成は、これから課題である。そこで、「いろいろなふね」の教材文では四つの船の役目と工夫について、繰り返し出てくる基本的文型と共に押さえ、読むことで文章を、事柄の順序を考えながら文章の大体を読むことの力を育てるのに適していると考え、本単元を設定した。

そのため指導にあたっては、まず導入として教師の作った乗り物図鑑を提示し、自分も作ってみたいという思いを抱けるようにする。次に、教材文を使用し、基本的文型を押さえて四つの船の役目と工夫について読み取り、カードの書き方を把握させる。そして、自分で書きたい乗り物について、本を選び、内容の大体を読み取り、自分だけの乗り物カードを書き、図鑑を完成させる。自分が書きたい乗り物についての情報がどの本にあるのか比べ読みをしたり、文章の大体を読み取り、役割と工夫を読み取るために何回も繰り返し教材文や本を読んだり、友達が作った乗り物図鑑を読むことで、いろいろな特徴や工夫がそれぞれの乗り物にはあるということに気付いたりする姿を期待する。

## 4 単元の目標

- いろいろな乗り物に興味を持ち、本を読んだり乗り物図鑑を作ったりしようとする。  
(関心・意欲・態度)
- 乗り物の役目と工夫を説明するために、基本的文型を使って乗り物図鑑を作ることができる。  
(書くこと)
- 乗り物の役目や工夫を表す言葉を基本的文型と共に見つけたり、文章の構成を押さえて文章を読んだりすることができる。  
(読むこと)
- 平仮名や片仮名、学習した漢字を正しく読んだり書いたりすることができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
いろいろな乗り物に興味を持ち、本を読んだり乗り物図鑑を作ったりしようとしている。	乗り物の役割と工夫を説明するために、基本的文型を使って乗り物図鑑を作ろうとしている。	乗り物の役目や工夫を表す言葉を基本的文型と共に見つけようとしており、文章の構成を押えて文章を読もうとしている。	言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。

## 6 単元の指導計画 (10時間扱い)

主な学習活動	主な評価
1 「乗り物図鑑」作りの学習の見通しをもつ。 ・教師の作った乗り物図鑑を見て、学習の見通しを持ち、教材文全文を読み、内容の大体をつかむ。	・「乗り物図鑑」を作る活動に興味を持ち、進んで教材文を読もうとしている。 (関心・意欲・態度)
2 教材文を読み、基本的文型を押さえ四つの船の役割と工夫について読み取る。 ・「きやくせん」の役目と工夫を読み取る。 ・「フェリーボート」の役目と工夫を読み取る。 ・「ぎょせん」の役目と工夫を読み取る。 ・「しょうぼうてい」の役目と工夫を読み取る。	・四つの船が出てくる構成を把握し、基本的文型をおさえながら、それぞれの船の役目と工夫を読み取っている。 (読む能力) ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。 (言語についての知識・理解・技能)
3 乗り物カードの書き方を知る。 ・「きゅうきゅうしゃ」を説明するカードを書く	・乗り物に興味を持ち、乗り物について書かれたいろいろな本を読もうとしている。

<p>き、乗り物の役目と工夫を伝えるための書き方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな乗り物を選び、本を読む。</li> <li>・好きな乗り物の役目と工夫を調べて表に書く。</li> </ul> <p>4 自分だけの乗り物図鑑を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだ乗り物について、役目と工夫を落とさずにカードにまとめる。(本時)</li> <li>・今まで書いたカードを図鑑にまとめ、友達同士で読み合う。</li> </ul>	<p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな乗り物についての本を役目・工夫を見つけてながら読んでいる。 (読む能力)</li> </ul> <p>・基本的文型を生かして、自分が選んだ乗り物のカードを書いている。 (書く能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作った図鑑を読み、様々な乗り物の役目や工夫を知ろうとしている。 (読む能力)</li> </ul>
---	--

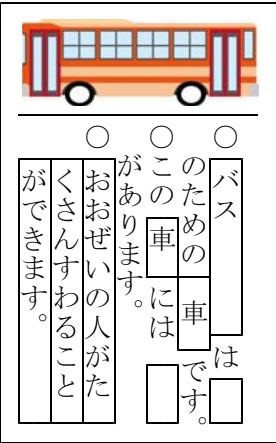
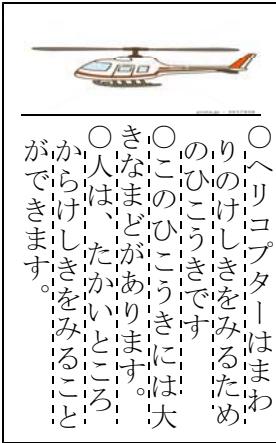
## 7 本時の学習

### (1) 目標

乗り物の表をもとにして、自分が選んだ乗り物について基本的文型を生かして乗り物カードを作ることができる。

### (2) 準備・資料

自分の選んだ乗り物の表 救急車のカード 色シール ワークシート 教師作成の乗り物図鑑 実物投影機 プロジェクター

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が作った乗り物図鑑のカードを提示したり、前時までに調べた乗り物の表を振り返ったりすることで、自分が作る乗り物のカードの見通しが持てるようになる。</li> </ul>
2 カードに書く内容を確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物の名前と何のための乗り物か。 (役目)</li> <li>・そのために何があるか。(工夫)</li> <li>・それを使って何をするのか。 (できること)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例として救急車についてまとめたカードを提示し、役目や工夫、できることをどのように書けば良いかを考えさせながら、書く内容を全員に確かめる。</li> <li>役目はその乗り物の「すごいところ」、工夫はその乗り物が「どうしてすごいか」を押さえればよいことを話し、役目と工夫は必ず書くようにする。</li> </ul>
3 乗り物カードを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードに内容を書いていない児童には、ワークシートにある色シールと表にある色が対応していることを知らせ、自分の選んだ乗り物についてカードを作れるように支援する。</li> <li>カードに文章を書き終わってしまった児童には、自分の選んだ本を持ってきて、絵を描きカードを完成させるように助言する。</li> <li>乗り物カードは穴埋め式と罫線のみの物を用意し、児童が自分で書きやすいものを選べるようにする。</li> <li>カードが作れない児童には、役目は赤シールの部分に、工夫は青シールの部分に、できることは黄シールの部分に書けばよいことを伝え、それぞれの項目を教師が質問して個別指導をする。</li> </ul>
 穴埋め式カード	 罫線式カード
4 乗り物カードを隣の友達と読み合う。	◎乗り物の表をもとにして、自分が選んだ乗り物について基本的文型を生かして乗り物カードを作ることができたか。 (カード)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の書いたカードを発表します。</li> <li>・Aさんはバスについて書いたんですね。</li> <li>・パトカーはランプが付いているんですね。</li> <li>・救急車のすごい所が分かりました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗り物カードを読み合う時には、間違いや抜けがないかを互いに確認するようにする。</li> <li>お互いの乗り物カードのよかったですを賞賛するようにし、学習の成就感を味わえるようにする。</li> </ul>
5 乗り物カードを全体で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物投影機を使い、カードを見ながら発表できるようにする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光船 ・クレーン車 ・新幹線</li> <li>・ジャンボジェット機 ・ハイブリッド車</li> <li>・オフロードダンプカー ・バイク</li> </ul>	